



この夏、名古屋では「猛暑日（35℃以上）日数は過去最多の37日、2018年の記録を更新！」「連続猛暑日は82年ぶりに記録更新の25日間」といった記録づくめの暑い夏でした。さらに夏休み最後のフィナーレとして台風10号がゆっくりと日本を縦断して猛威を振るい、全国各地に“記録的な”大雨や河川の氾濫、暴風、土砂災害をもたらし、交通機関にも大きな影響を及ぼしました。8月最後に遊びに行く予定など、楽しいことを計画していて中止になってしまった人もいるのではないのでしょうか。

夏休みも終わって2学期が始まります。「学校に行けて、みんなに会えてうれしいな！」でしょうか？それとも「ああ、学校始まる…嫌だなあ〜」でしょうか？いずれにしても、新たな気持ちで2学期をスタートすることで、きっとステキな学校生活が送れることでしょうか！2学期は学校でもいろいろな行事があると思います。さまざまな不安や心配があるかもしれませんが、みなさん一人ひとり、心も体も健康に過ごして、一人ひとりの“いいところ”を伸ばしていきたくてほしいと祈っています。ぜひ自分にとっての良い面での“新記録”に挑戦して、自分自身の“金メダル”を獲得してください！



**今月の礼拝**

単元12: モーセ

📖…お話 🎵…奏楽

月日	週 題	聖書箇所	ティーンズ礼拝 (小4~中学生) 9:00 ~ 9:30	プレイ・タイム (小学生/中学生) 9:35 ~ 9:55	こどもれいはい (幼児~小3) 10:00 ~ 10:20
9月1日	葦の海を渡る	出エジプト記 13:17-14:31	📖 武岡 基 🎵 武岡路実		📖 武岡路実 🎵 安達いづみ
9月8日	天からのマナ	出エジプト記 16章	📖 武岡路実 🎵 安達いづみ		📖 安達いづみ 🎵 武岡路実
9月15日	十戒	出エジプト記 19:1-20:17	📖 安達正樹 牧師 🎵 安達いづみ		📖 安達正樹 牧師 🎵 安達いづみ
9月22日	金の子牛	出エジプト記 32章	📖 堤 砂里奈 🎵 武岡路実		📖 安達いづみ 🎵 武岡路実
9月29日	カナンのはらけ	民数記 13:1-14:38	📖 安達正樹 牧師 🎵 安達いづみ		📖 武岡 基 🎵 武岡路実

**しんきび 振起日** あまり馴染みがないかもしれませんが「振起」とは「奮い立つこと。奮い起こすこと。」という意味です。教会的には「再びしっかりと信仰を持つ」「神さまに立ち返る」とでも言いましょうか。CSの子どもたちみなさんにはちょっと難しいかもしれませんが、「神さまのことを思い起こす」「神さまの御声に耳を傾ける」と言い換えましょう。

教会の伝統の中で9月の第1日曜日を「振起日」「決心日」と定めているところもあります。これから秋、そしてクリスマスへと向かっていきます。教会の歩みもしっかり続けていきましょう。



**今月の聖句**

わたしたちに必要な糧を今日与えてください。  
(マタイ6:11)

**今月のさんびか**

こどもさんびか 14 (こえのかぎり かみをたたえよ！)

今月のCS礼拝では8月の終わりから旧約聖書「出エジプト記」のモーセについて学んでいきます。旧約聖書に登場する人物は数も多く、難しいものがあります。モーセについてはこれまでも学んでいますが、モーセについてわかりやすくまとめた賛美歌がこどもさんびか46(ナイルのきしの)です。1節ではファラオの娘に救われた赤ちゃんモーセ、2節では召命を受けたモーセ(礼拝では8月25日)、3節ではエジプトからイスラエルの民を連れ出し神さまに導かれるモーセ(礼拝では9月1日~)、4節では神さまから十戒を授かったモーセ(礼拝では9月15日)、5節では神さまからの約束の土地に到着することなく天に召されたモーセ(礼拝では9月29日)と、礼拝のお話ともつながります。旧約聖書の物語はなかなか難しいものですが以前にも「今月のさんびか」として歌ったことがあるので、ぜひ思い返して歌ってみてください。

今月のさんびかは直接モーセとつながりがある賛美歌ではありませんが、モーセをはじめ旧約聖書に登場する預言者たちに共通している「神さまへの信仰」「神さまへの賛美」といった大切なことを歌っています。今月のさんびか14「こえのかぎり かみをたたえよ！」は、これまでも歌ったこと、聞いたことがあるのではないのでしょうか。作詞・作曲はニュージーランドの賛美歌作家コリン・ギブソンさん(1933-)です。彼はニュージーランド南島オタゴ地方の中心都市ダニーデン(南島ではクライストチャーチに次ぐ2番目の都市)に生まれ、オタゴ大学で学び英文学博士号を取得しました。その後母校のオタゴ大学で教師となり、専門分野ではシェイクスピアなどに関する著作があります。現在は同大学の名誉教授です。教会音楽の分野では、長年にわたりモーニングストン・メソジスト教会のオルガニスト、音楽監督を務め、また賛美歌学の研究者としても活躍しています。彼の賛美歌の歌詞と曲は、アフリカ、アメリカ、アジア、オーストラリア、ヨーロッパで出版されています。世界各国での賛美歌のワークショップや講演会も数多く行っており、2012年には日本賛美歌学会招きで来日し、講演しました。



この賛美歌の原詞“With a hoot and a toot(警笛やラッパのような音で/大騒ぎで)”には「詩編151」というユニークな副題が付けられています。旧約聖書の詩編は150までしかありません。どういことでしょうか。詩編150にはさまざまな楽器が登場し、それらを用いて神さまを賛美します。その詩編150の「続き」という思いが込められています。原詞では4節ありますが、日本語詞では1節にまとめました。原詞の“With a hoot and a toot”「警笛やラッパのような音で/大騒ぎで」という歌い出しからも、その賑やかな音色が聞こえてくるようです。原詞では各節で“we will make him a joyful noise.”「神さまに向かって喜びに満ちたノイズ(騒音/騒がしいほどの音)を立てよう」と繰り返されています。「賛美」ということを考えると、つい「美しく整えられた歌声や楽器演奏を献げよう」「上手に賛美しよう」という発想をしがちな私たちに、「賛美」の新しい意味を教えてください。実際に、身近にあるさまざまな楽器を自由に鳴らしながら歌ってもよいでしょう。歌詞にいろいろな楽器が登場しますので、それぞれの楽器を思い浮かべながら、あるいはその楽器の音を真似したり、身振りで演奏してみたりしてもおもしろいです。明るく元気な賛美歌ですので、神さまへの賛美とともに、神さまからのパワーを受け取って、私たち自身も元気になって、新学期の9月からの学校や保育園・幼稚園での生活を送りましょう！もちろん、子どもだけでなく、お家の方や教会の大人のみなさんも元気に過ごしましょう！



**おたんじょうびおめでとう** 🍰 **9月生まれのお友だち**  
 小出爽太くん 2日 三宅遥羽さん 28日 九鬼颯真くん 29日